

クラウン令和2年度課題詩（2）

<p>立山を望む（国分青厓） 夢に名山を見ること四十年 暮に山麓に投ずれば只雲煙 天明日出でて驚き相揖すれば 玉立せる群仙我が前に在り</p>	<p>舟大垣を発し桑名に赴く（頼山陽） 蘇水遙々海に入つて流る 櫓声雁語郷愁を帯ぶ 独り天涯に在つて年暮れんと欲す 一篷の風雪濃州を下る</p>	<p>天の原（安部仲麻呂） 天の原ふりさけ見れば春日なる 三笠の山に出でし月かも 天の原ふりさけ見れば春日なる 三笠の山に出でし月かも</p>	<p>東海の（石川啄木） 東海の小島の磯の白砂に われ泣きぬれて蟹とたわむる 東海の小島の磯の白砂に われ泣きぬれて蟹とたわむる</p>
<p>常盤孤を抱くの因に題す（梁川星巖） 雪は笠檐に灑いで風袂を捲く 呱々乳を覓むるは若為の情ぞ 他年鉄拐峰頭の峻 三軍を叱咤するは是れ此の声</p>	<p>舟由良港に到る（吉村寅太郎） 首を回らせば蒼茫たり浪速の城 篷窓又聴く杜鵑の声 丹心一片人知るや否や 家郷を夢みず帝郷を夢む</p>	<p>幾山河（若山牧水） 幾山河越えさり行かば寂しさの 終てなむ国ぞ今日も旅ゆく 幾山河越えさり行かば寂しさの 終てなむ国ぞ今日も旅ゆく</p>	<p>為せば成る（上杉鷹山） 為せば成る為さねば成らぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり 為せば成る為さねば成らぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり</p>
<p>楠公を詠ず（日柳燕石） 日本に聖人有り 其の名を楠公と謂う 誤まつて干戈の世に生まれ 剣を提て英雄と作る</p>	<p>楓橋夜泊（張継） 月落ち烏啼いて霜天に満つ 江楓漁火愁眠に對す 姑蘇城外の寒山寺 夜半の鐘声客船に到る</p>	<p>銀も（山上憶良） 銀も金も玉もなにせむに 優れる宝子に及かめやも 銀も金も玉もなにせむに 優れる宝子に及かめやも</p>	<p>箱根路を（源実朝） 箱根路をわが越えければ伊豆の海や 沖の小島に波の寄る見ゆ 箱根路をわが越えければ伊豆の海や 沖の小島に波の寄る見ゆ</p>
<p>八幡公（頼山陽） 結髪軍に従うて弓箭雄なり 八州の草木威風を識る 白旗動かす兵營静かなり 馬を辺城に立てて乱鴻を見る</p>	<p>涼州詞（王翰） 葡萄の美酒夜光の杯 飲まんと欲すれば琵琶馬上に催す 酔うて沙場に臥す君笑うこと莫かれ 古来征戦幾人か回る</p>	<p>白鳥は（若山牧水） 白鳥はかなしからずや空の青 海の青にも染まずただよふ 白鳥はかなしからずや空の青 海の青にも染まずただよふ</p>	<p>久方の（紀友則） 久方の光のどけき春の日に しず心なく花の散るらむ 久方の光のどけき春の日に しず心なく花の散るらむ</p>
<p>平泉懐古（大槻磐溪） 三世の豪華帝京に擬す 朱楼碧殿雲に接して長し 只今唯東山の月のみ有つて 来り照す当年の金色堂</p>	<p>廬山の瀑布を望む（李白） 日は香炉を照らして紫烟を生ず 遙かに見る瀑布の長川を挂くるを 飛流直下三千尺 疑うらくは是れ銀河の九天より落つるか</p>	<p>敷島の（本居宣長） 敷島の（本居宣長） 敷島の（本居宣長） 敷島の（本居宣長） 敷島の（本居宣長） 敷島の（本居宣長） 敷島の（本居宣長） 敷島の（本居宣長）</p>	<p>ふるさとの（石川啄木） ふるさとの山に向ひて言うことなし ふるさとの山はありがたきかな ふるさとの山に向ひて言うことなし ふるさとの山はありがたきかな</p>